

<b>留 学 報 告 書</b>
------------------

記入日:2019年7月16日

所属学部／研究科・学科／専攻	国際日本学部
留学先国	イタリア
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文: カフオスカリ大学 現地言語: Universita Ca'Foscari Venezia
留学期間	2018年9月～2019年7月
留学した時の学年	2年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	2年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	<input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属しなかった。
帰国年月日	2019年7月6日
明治大学卒業予定年	2021年3月
<b>留学先大学について</b>	
形態	<input checked="" type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他
学年暦	1学期:9月～1月      2学期:2月～6月      3学期: (記入例/1学期:4月上旬～7月下旬, 2学期:9月中旬～2月上旬)
学生数	3年
創立年	1868年

留学費用項目	現地通貨 (ユーロ)	円	備考
授業料	0	0円	
宿舍費	3,450ユーロ	450,000円	
食費	2,500ユーロ	300,000円	
図書費	200ユーロ	26,000円	
学用品費	50ユーロ	7,000円	
教養娯楽費	4,000ユーロ	500,000円	
被服費	1,500ユーロ	200,000円	
医療費	0ユーロ	0円	
保険費	700ユーロ	90,000円	形態:
渡航旅費	1,300ユーロ	170,000円	
雑費	500ユーロ	70,000円	
その他		円	
その他		円	
その他		円	
<b>合計</b>	14,200ユーロ	1,613,000円	

## 渡航関連

渡航経路: 成田→ドバイ ドバイ→ベネチア ベネチア→ドーハ ドーハ→羽田

渡航費用

チケットの種類	往復別々
往路	¥110,000
復路	¥60,000
合計	¥170,000

渡航に際して利用した旅行会社やガイドブックを教えてください。

往路は、JTB 公式サイトから、復路は航空会社のホームページから直接購入しました。

## 滞在形態関連

1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舎など)

アパート

2)部屋の形態

個室 OR 相部屋(同居人数 )

3)住居を探した方法:

大学の斡旋

4)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

自分たちで何事も管理するので、責任感が高まるのと同時にルームメイトとの一体感も生まれ、とても良い経験になった。また、フラットメイトが皆自分と違う国出身だったので日々の生活で文化の違いを感じることができ、毎日が刺激的で楽しく、また自分の成長にも繋がった。

## 現地情報

1)現地で病院にかかったことはありますか? 大学内の医務室/診療所や付属病院等で医療サービスを受けることは可能でしたか?

利用する機会が無かった  
利用した:

2)学内外で問題があったときには誰に相談しましたか。留学先大学に相談窓口はありましたか。

Incoming Mobility という留学生に対応したオフィスがあったので、何かあった際にはメールをしたり、アポイントメントを取ったりしてオフィスのスタッフと直接話していた。

3)現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

ベネチアはとても安全な街で、深夜に一人で歩いても危険と感じたことは一度もなかった。カーニバル期間などの混雑時はスリが多く見られると聞いたことがあるが、周りで被害にあっている人はいなかった。

4)パソコン、携帯電話、インターネット(接続について)現地での利用はいかがでしたか。

(例:寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

アパート内では WIFI を使用しており、外では携帯電話に現地で購入した sim カードを入れて使用していた。sim カードは購入時に約 30 ユーロほど払い、その後は毎月 10 ユーロほどで 30GB 分のインターネットと国内通話し放題だった。接続に困ることは特になかった。

5)現地での資金調達はどうに行いましたか? (例:現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

日本のクレジットカードを使用しており、請求の講座に日本の親から毎月使用した分を送金してもらった。

6)現地では調達できない日本から持っていきべき物があれば教えてください。

ヒートテック。最低限の洋服 1 年分。

7)【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。(例:渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った、渡航前に留学先大学から指示があった、渡航後のオリエンテーションで支払いに関する案内があった等)

## 卒業後の進路について

1) 進路
<input checked="" type="checkbox"/> 就職 <input type="checkbox"/> 進学 <input checked="" type="checkbox"/> 未定 <input type="checkbox"/> その他:
2)進路決定の際に参考にした資料、図書、機関など
3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、或は入社すると決定した企業の名前のみでも構いません) ※1～3年生で、就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。
物流、国際機関
4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。 (例:留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。) ※1～3年生で、就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。
留学前は、就きたい職種などはあったものとてもぼんやりしていたが、留学を通してやりたいことや学びたことがより明確になった。また、一般に言われている大企業や世間で評価されているような職に就きたいと思っていたが、今は自分が本当にやりたいことと企業の条件のバランスを考えてやりがいや意味をその過程で感じながら効率的に、かつ充実した就職活動に取り組むことができていると思う。
5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。
6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。
7) その他を選択した方は、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

## 学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
48 単位	<input checked="" type="checkbox"/> 32 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由: )
2)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Cross Cultural Marketing	異文化マーケティング
科目設置学部・研究科	management
履修期間	2018 年 9～10 月
単位数	6
本学での単位認定状況	4 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 90 分が 3 回
担当教授	Prof. Tiziano Vescovi
授業内容	グローバル社会でのマーケティングに置ける戦略を学び、実際にイタリアのブランドの CEO が講義に来てそのブランドを分析し、マネジメントを考える。
試験・課題など	- ブランドのマネジメントに関する分析とプレゼンテーション - 個人ブランド分析レポート - 筆記試験
感想を自由記入	実際にブランドをグループで分析するということがとても実践的で面白かった。また、文化の違いについても学び、マーケティング以外にも活用できる内容で役に立った。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Theories of Language Education	言語教育論
科目設置学部・研究科	言語学
履修期間	2018年9月~12月
単位数	6
本学での単位認定状況	4単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に90分が1回
担当教授	Prof. Coonan Carmel Mary
授業内容	言語を学んでいく過程について、主に子供の学校教育を中心に学ぶ。
試験・課題など	- ファイナルレポート - 筆記試験
感想を自由記入	言語教育にはもともと興味があったので、3カ国以上を操ることができる人が珍しくないようなヨーロッパの言語教育システムについて知ることができたのはとても興味深かった。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
History of Venice	ベネチアの歴史
科目設置学部・研究科	School for International Education
履修期間	2018年9月~12月
単位数	6
本学での単位認定状況	4単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に90分が1回
担当教授	Prof. Isabella Cecchini
授業内容	ベネチア形成の歴史について。
試験・課題など	- 最終レポート - レポートについて面接
感想を自由記入	ベネチアは実際に暮らしていた街なので、日々の生活の中で授業で学んだ成果が見られたり、発見できたりすることがとても面白かった。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Economics of Globalization	グローバル経済学
科目設置学部・研究科	経済
履修期間	2018年11月~12月
単位数	6
本学での単位認定状況	4単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式 (チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に90分が3回
担当教授	Prof. Giancarlo Corò
授業内容	グローバル視点での経済学について。様々なグラフの分析。
試験・課題など	- 筆記試験
感想を自由記入	経済学は興味があったが今までに履修したことがなかったので、不安はあったが初心者でも授業について行くことができたのでよかった。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Individual and Group Behavior for Innovation	個人や団体の態度の革新
科目設置学部・研究科	Management
履修期間	2018年11月～12月
単位数	6
本学での単位認定状況	4単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に90分が3回
担当教授	Prof. Anna Comacchio
授業内容	ビジネスの場面におけるスムーズなマネジメントのための個人や団体のモチベーション育成や態度や行動の分析について。
試験・課題など	- 企業分析レポートとプレゼンテーション - 口語試験
感想を自由記入	授業内容は面白かったが、学んだことについての口語試験があり、勉強量が多く、言語科目以外での口語試験は受けたことがなかったので対策方法もわからず大変だった。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Gender Studies	ジェンダー学
科目設置学部・研究科	
履修期間	2019年2月～5月
単位数	6
本学での単位認定状況	4単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に90分が2回
担当教授	Prof. Sara De Vido
授業内容	ジェンダーにおける世界レベルの法律について。
試験・課題など	- 最終レポート
感想を自由記入	ジェンダー学にはもともと興味があり、現在注目を集めている話題なので、授業を履修したことをきっかけに日常生活でもジェンダーについて考えるようになり、授業への関心が徐々に深まっていきまた勉強した成果が感じられたので履修してよかったと思った。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
The Image of Italy in the British and American Novel	英米文学におけるイタリアのイメージ
科目設置学部・研究科	
履修期間	2019年2月～5月
単位数	6
本学での単位認定状況	4単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に90分が2回
担当教授	Prof. Adrean Pinnington
授業内容	英米小説を読み、そこから読み取れるイタリアの社会的イメージについて分析する。
試験・課題など	- 個人レポート
感想を自由記入	読むのが得意ではないので難しい部分もあったが、小説を通して色々なことが読み取れることを知れたのはよかった。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Framing American West	西洋劇学
科目設置学部・研究科	
履修期間	2019年2月～5月
単位数	6
本学での単位認定状況	4単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に90分が2回
担当教授	Prof. Boris Vejdovsky
授業内容	西洋劇を鑑賞し、実際のアメリカ西部の印象に対して映画ではそれがどのように描かれているかについて分析する。
試験・課題など	- 最終レポート
感想を自由記入	色々な国の生徒たちが履修していたので、アメリカ掲げる美の象徴に対してあらゆる意見が聞けたことがとても面白かった。



留学に関するタイムチャート
---------------

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。例：語学試験の勉強、選考、出願、留学中の中間試験，期末試験，その他イベント等

2017年 1月～3月	
4月～7月	入学後、留学ガイダンス等参加 TOEFL 勉強
8月～9月	TOEFL 受験
10月～12月	留学申請書類の準備、提出。
2018年 1月～3月	
4月～7月	留学先大学への出願 ビザの手配 航空券の手配
8月～9月	渡航準備 渡航
10月～12月	現地オリエンテーション参加 授業選択 1学期スタート
2019年 1月～3月	冬休み 2学期スタート
4月～7月	イースター休暇 試験 プログラム終了 帰国
8月～9月	
10月～12月	

## 留学体験記

<p><b>学しようと思った理由</b></p>	<p>私は、昔から海外留学、そして海外生活に憧れがあり、大学に進学したら絶対に留学すると決めていました。私は小さい頃から周りに留学を含め海外在住経験がある友人がたくさんおり、彼らからいつも話を聞いていたので自分が留学するということもとてもイメージしやすかったということもあると思います。また、今まで「将来これをやりたい」ということがなかなか見つからずにいたので、留学をすることで色々な人から日々刺激をもらい、何かヒントを見つけられるのでは無いかと考えていました。</p>
<p><b>留学のためにした準備、しておけば良かったと思う準備</b></p>	<p>イタリア語をもっと勉強しておけばよかったと思いました。私は出発前の段階で先輩から直接「イタリア語を学んでおいた方がよい」とアドバイスを頂いたり、以前同じ留学先に行かれた方の記事をインターネットで読んだ際に、「イタリア語を勉強しておけばよかった」などと書いてあったのを目にしたことはありましたが、やはり独学で始めるというのは手をつけづらく、本当に簡単な単語だけ覚えてあとは現地で学ぼうと考えていましたが、実際には友情関係を築いたり、正確な意思疎通をはかるためにと思って英語を使うことがほとんどでイタリア語の授業外、地元のお店での簡単なやりとり以外にイタリア語を使う場面は少なかったため、留学が決まった時点から大学の授業を履修するなどしてある程度のレベルまでコツコツ学習しておけばよかったと思いました。</p>
<p><b>この留学先を選んだ理由</b></p>	<p>そもそも私は海外旅行や短期語学留学の経験を通してヨーロッパに住んでみたいとずっと思っていたのでヨーロッパの選択肢の中から検討しました。その中でベネチアのカフォスカリ大学を選んだ理由は、ヨーロッパ規模で有名な日本語学科があるからということと、大きな都市である東京とは対照的で小さくてこじんまりとしたベネチアという街での生活を体験してみたかったからということです。私は教育学に興味があり明治大学でも「日本の教育」という授業を履修していました。そして自分が生徒として感じる現在の日本の英語教育における問題点についてより深く追求したいと思い、多くの人が複数ヶ国語を操るヨーロッパではどのようにして言語教育がなされているのか、日本語教育を通して実際に自分の目で状況を確認してみたいと思い、カフォスカリ大学を選びました。また、私は19年間東京という大都市で育ってきたので、歴史的で景観も環境も全く異なるベネチアに魅力を感じ、その違いを肌で体感してみたいと考えました。</p>
<p><b>大学・学生の雰囲気</b></p>	<p>カフォスカリ大学の生徒は皆勉強に熱心でアルバイトをしている人なども少なく、授業に積極的に参加したり、テスト勉強に励んだりという姿がよくみられたのでとてもいい刺激になり自分も頑張ろうと思われ、このような環境にはとても恵まれたなと思いました。何かわからないことや困ったことがあった時はオフィスの方にメールで伝え、親切に対応してもらったので、特に不安などもありませんでした。また、自分で時間割を組み立て自分の好きな授業を履修することができたので授業数は少なくはなかったですが、苦なくこなすことができました。そして試験に1回落ちてもその後何回か再試のチャンスがあるので、他の試験との日付が近い時などは勉強の配分時間を調節したり、次回受験するなどして自分のペースでのびのびと勉強できました。</p>
<p><b>寮の雰囲気</b></p>	<p>私は、寮ではなくアパートを3人のルームメイトとシェアしていました。ルームメイトは同い年のイタリア人男性2人と4歳上のフランス人女性1人でした。初めは不安や、また文化の違いの壁があり自分の意思を伝えることに苦労したり、考え方に違いがあったりなど苦労もありましたが、お互いがお互いを尊重し理解し合い、とても良好な関係を築くことができました。特にアパートは自分たちで家の管理をするので、掃除をしたり、何かトラブルがあった際には自分たちで対応しなければならないのでそういう面では結束力が必要になるため、ルームメイトは家族のような存在で、アパート生活にしてよかったと今では心から感じています。よく4人でゲームをしたり、お話をしたり、また出かけたりなど毎日の生活がとても充実していて家にいる時間がとても好きでした。</p>
<p><b>交友関係</b></p>	<p>初めは、全く違う文化やバックグラウンドを持つ人々とどのような話をしたら良いか、どのように付き合えば良いかなどわからないことがたくさんありましたが、留学生向けのイベントに参加したり、街中の学生が集まる広場に出かけているいる人と交流して行く中で環境に慣れ、友達作りが楽になってきました。仲良くなった友達とは一緒に出かけたり、カフェや美術館に行ったりなど有意義な時間を過ごせました。また、友達何人かをアパートに招待して日本食を振舞ったりなどもできたのはとても良かったです。</p>
<p><b>困ったこと、大変だったこと</b></p>	<p>旅行先のイスタンブールでスリに遭ってしまい、お財布を盗られてしまいました。中には現地大学の学生証、デビットカード、現金少量などが入っており、カードは日本にいる家族にすぐに使用停止してもらったので大きな損害にならずに済みましたが、ベネチアに戻ってからのカード再発行や学生証の申請手続きに思った以上に時間がかかり大変でした。学生証の再発行はイタリア語で行わなければならない手続きがあったのでイタリア人の友達に手伝ってもらいました。</p>



学習内容・勉強について	最初のうちは、全て英語で行われる授業に疲労を感じたり、集中力が持たなかったりで内容を聞き逃してしまうこともありましたが、1ヶ月ほどで慣れ始め、ストレスもなくなりました。またグループワークの授業などは実践的で、わからないことがあったらグループの友達に聞くことができたのでよかったです。授業内容や進め方について疑問に思うことがあったら教授に聞くと、丁寧に対応してくれたので速やかに解決することができました。
課題・試験について	日々の課題はあまりありませんでしたが、試験前になると勉強量が多く、前々から対策をしても時間が足りず睡眠時間を削ることもありました。特に口語試験の科目においては初めての経験で覚えることも多く、対策の仕方もわからずなどで苦労しました。また、レポートやエッセイの制限字数は日本の大学よりもはるかに多く、内容も難しかったため、思った以上に時間がかかりました。その分、実際に試験に受かった時の嬉しさ、レポートを書き終えた時の達成感は大きく自分に自信がつかしました。
大学外の活動について	私は現地でジェンダー学に興味をもち、ジェンダーについての講演や会議に積極的に参加していました。また、学期末のテストが終わった7月には、ジュネーブにある国連のOHCHRのオフィスで働くイタリア人と日本人の職員の方をカフォスカリ大学の教授にご紹介していただき、ジュネーブの国連オフィスに訪問する機会をいただき、仕事内容やジェンダーを中心とした社会問題についてお話を聞き、とても貴重な経験をさせていただきました。また実際にオフィスなども見学させていただき、想像以上に幅の広い職種や研究内容に驚きました。ジェンダー学に学外の活動を通して自発的に取り組んだことは就職を将来を考える良いきっかけになりました。
留学を志す人へ	私は自分がマイノリティである環境に初めてこれほどの長期間身を置き、この留学生活中は特に人種やジェンダーについて深く考えました。日本人女性として現地で生活して行く中で時には決して好ましくないような態度を取られたり、嫌な思いをすることもありましたが、同時に他人との違いを受け入れ、自分らしさを尊重するという西欧の文化のもとで、自尊心が培われ自分を大切にすること、自分のために立ち向かうこと、そして意見をすることの習慣が身につく、自分自身の価値観があらゆる面において大きく変わり人間として多に成長することができた10ヶ月間になりました。初めは慣れない環境に消極的になりすぎる場面も多々ありましたが、だんだんと自分に自信が持てるようになり、今まで長い間背負っていた肩の荷が下りた気がしました。そして自分が自分でよかったと誇りを持って言えるようになったこと、またそれによって周りの全ての環境に感謝できるようになったことは本当に留学をしてよかったと感じる1番の理由です。勉強ももちろん大切ですが、日々の生活で様々なことを経験し、いろいろな人との関わりを持ち、その中で困難に直面することもあると思いますが、たくさんのかんことを吸収して学んでください。

## 一週間のスケジュール(例)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前中	授業	授業	授業	自習	自習	読書	読書
						自習	自習
午後	授業	授業	授業	授業	授業	美術館巡り	散歩
		買い物		買い物		買い物	
夕刻	夕食作り	夕食作り	夕食作り	夕食作り	夕食作り	夕食作り	夕食作り
夜		散歩	散歩	ルームメイトとゲーム	交流会		